

経済・金融 フラッシュ

中国が 10-12 月期GDPを発表 ～成長率は実質 7.7%増へやや減速

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

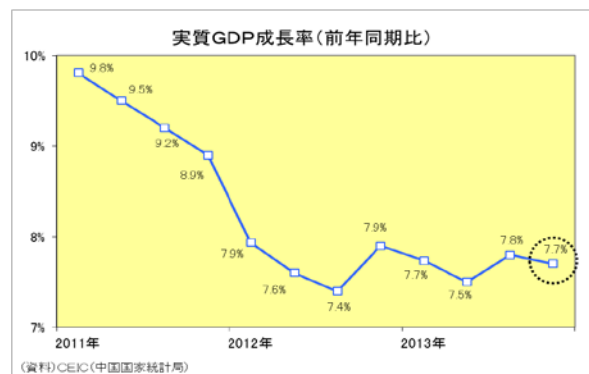
- 2013年10-12月期の国内総生産（GDP）は実質で前年同期比7.7%増と前四半期の同7.8%増を0.1ポイント下回った。市場が予想した範囲内でやや良い数字というところだろう。
- また、10-12月期の投資は第三次産業の伸び鈍化を受けてやや減速したものの、消費は自動車、家具、家電などの耐久消費財が牽引して回復基調が続いた模様である。
- 今回のまずまず良好な経済指標を受けて、中国政府は目先の経済成長よりも経済の構造調整を優先した経済運営を継続すると思われる。

【 成長率は実質 7.7%増へやや鈍化 】

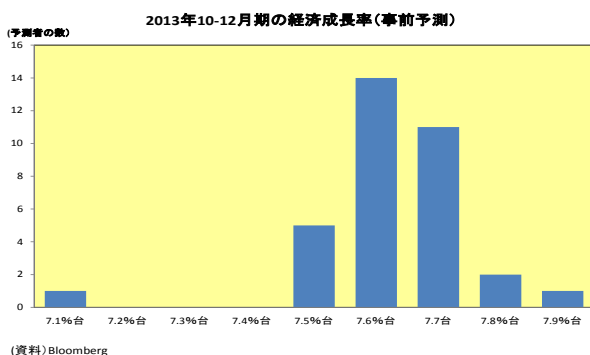
1月20日（月）、中国国家统计局が発表した2013年10-12月期の国内総生産（GDP）は実質で前年同期比7.7%増と前四半期の同7.8%増を0.1ポイント下回った（図表-1）。事前予想が7.6%前後だったことを勘案すると、市場が予想した範囲内でやや良い数字というところだろう（図表-2）。

また、前期比の成長率（季節調整後）を見ると、2013年1-3月期の1.5%増をボトムとして、2四半期連続で加速した後、今回発表された10-12月期は1.8%増へと伸びが若干鈍化した（図表-3）。

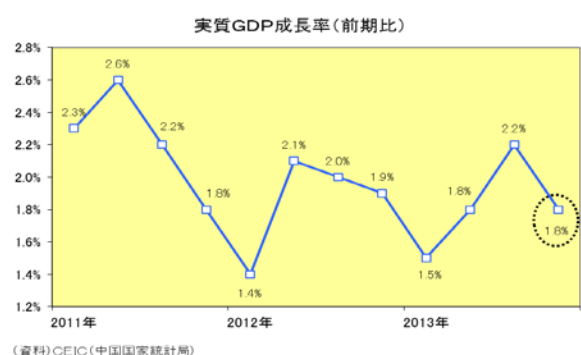
[図表-1]



[図表-2]



[図表-3]



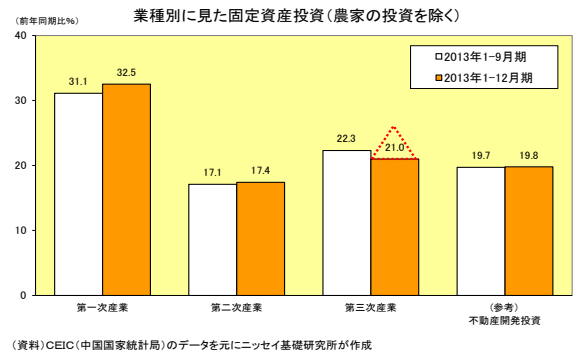
【 投資は鈍化も、消費は回復基調 】

また、GDP統計と同時に、固定資産投資や小売売上高など月次の経済統計も発表された。

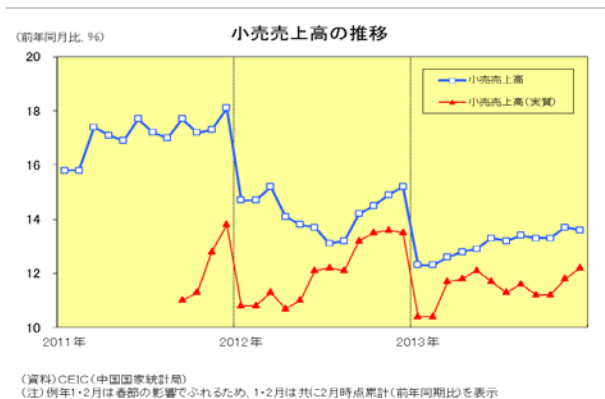
投資の代表指標である固定資産投資（農家の投資を含まず）は、1-12月累計で前年同期比19.6%増と1-9月累計の同20.2%増を0.6ポイント下回り、価格変動要素を除いた実質ベースでも前年同期比19.2%増と1-9月累計の同20.2%増を1.0ポイント下回っており、10-12月期の投資はやや減速した。業種別に見ると、9月まで好調だった第三次産業の伸びが鈍化した模様である（図表-4）。

一方、消費の代表指標である小売売上高は、12月に前年同月比13.6%増と11月の同13.7%増を0.1ポイント下回ったが、価格変動要素を除いた実質ベースでは前年同月比12.2%増と11月の同11.8%増を0.4ポイント上回っており、消費の回復基調は続いていると考えて良いだろう（図表-5）。特に自動車、家具、家電などの耐久消費財が牽引した模様である（図表-6）。

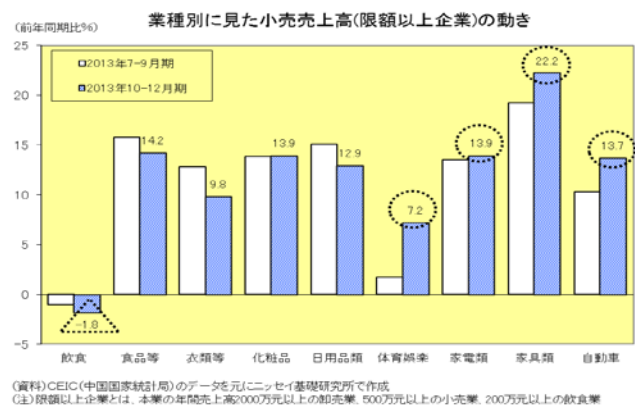
[図表-4]



[図表-5]



[図表-6]



【 今後も構造調整を優先した経済運営を維持か 】

中国経済の成長率は、これで8四半期連続の8%割れとなり、数年前までの成長率よりは減速しているものの、潜在成長率(7-8%程度)並みの7%台後半を維持しており、雇用不安が小さくインフレ懸念も小さい安定的な経済成長を実現できていると前向きに評価するのが妥当だろう。

また、投資は鈍化したものの消費が回復するなど今回のまずまず良好な結果を受けて、中国政府は目先の経済成長よりも経済の構造調整を優先した経済運営を継続するだろう。2014年の経済運営方針を決める中央経済工作会议(2013年12月開催)では、製造業が抱える生産能力過剰の解消を図ることや地方政府の債務リスク抑制・解消を進めることを主要任務に挙げており、リーマンショック後の大型景気対策で膨らんだ過剰投資・過剰債務を解消する方針を示しているからである。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。